令和2年7月発行 第50号 発行：京都府立林業大学校（隔月発行）

京林大だより

No.50

絵:卒業生 熊走君

大学校 再開！

４月始業後わずか１週間で休校となった大学校ですが、６月１日(月)にようやく再開することができました。休校の間、授業・面談などでオンラインに取り組むこともできました。

しかし、実習があってこその京林大です。やはりオンライン講義ではできないことが多々あります。現在、再開と同時に元気な姿で登校してきた学生たちは、森林調査の手法や林内での作業道の作設など様々な実習に取り組み、その技術をドンドン吸収しています。

今後、夏休みや冬休みの縮小・一部イベントの中止により、休校期間に行う予定であった講義日程を回復することとしています。学生、特に２年生は６月に予定していたドイツ研修も延期となり、短くなった夏休みなど思わぬ令和２年度の始まりとなっています。でもそこは若いパワーで乗り切ってくれることと期待しています。

樹木実習

森林作業道作設実習

刈払い作業実習

育林技術

８月１日（土）（要事前申込）

京林大を目指す方、待っています。

（詳しくは、京林大ＨＰ又はＦＢをご覧下さい。）

林政ニュース

『森林環境譲与税の前倒し配付』

昨年度から森林環境譲与税が市町村に配付されることは、林大だより第41号でお知らせしていましたが、今年度から当初の予定より大幅に前倒しして配付されることになりました。

これは、昨年の台風により倒木による停電被害が拡大したり、森林の保水力の低下によると考えられる洪水氾濫、山腹斜面の崩壊、流木被害などの大きな被害が発生したため、森林の整備がさらに緊急を要する課題になったからです。

当初は、森林環境税が徴収されるまでは、後年度の徴収額から借金をする形で先行して実施し、森林環境税の徴収額の600億円に達するのは14年後の2033年度からとなる予定でした。

しかし、前倒しにより2020年度からは「公庫債券金利変動準備金」という資金を活用できることになり、森林環境譲与税は当初の200億円から400億円に倍増し、森林環境税を徴収する2024年度には予定の600億円になることになりました。

森林の働きへの評価が高まっている表れでもあると思いますが、裏をかえせば森林整備を責任を持って進めていくことが求められているとも言えます。

今月の授業参観

『森林機能保全』

6月26日(金)に風致機能と災害防止機能を同時に高度発揮している事例として、嵐山国有林において実習を行いました。(入林届提出済み)

当日は、強い降雨もありましたが、京都府立大学の三好准教授と京都大阪森林管理事務所の担当官から解説や説明を受けながら、天竜寺～嵐山公園～渡月橋～嵐山国有林を巡りました。嵐山の成り立ちや地元と行政機関との関係、或いは最近の野生動物被害対策の内容等、多岐にわたって多くの知識を得るとともにその状況を目視することでより深く認識することができました。嵐山は観光地として有名でありますが、実は地質的、地形的には落石が起こりやすく、斜面も急峻で危険な箇所が多くあること、また鹿の食害がとても激しく、植生に悪影響を及ぼしていること、防災工事は景観に配慮して目立たない工法で行っていること等、景観を守りながら防災機能を高めることの困難さを痛感する機会となりました。

校長室より

童謡の原風景

校長　只木良也

誰もが知っている唱歌「故郷」は、「兎追いしかの山、小鮒釣りしかの川」で始まります。

2020年6月16日、朝日新聞夕刊の1面トップに、「童謡　歌えば広がる原風景、歌詞の1/4に山、桜、蛍」の見出しの下に、農研(農林水産省農業・食品産業技術総合研究機構)の研究チームが国際誌に発表した研究成果についての記事がありました。

それは、日本の童謡・唱歌の歌詞の冒頭に、森、海、農地、植物、動物、鳥、虫など、自然の生態系やその構成物の含まれる頻度を調査した報告の紹介記事でした。

調査対象1万3000曲のうち、1/4以上に自然界が現れ、生態系1,315曲(10.5%)、個別生き物2,331曲(18.6%)。生態系では、森林43.1%、海24.6%、湖・川9.3%。生き物別では、植物54.7%、鳥26.0%、昆虫10.0%。出現頻度の高い生物は、植物では、木本：サクラ、ウメ、マツ、モミ、ヤナギ草本：ススキ、バラ、ハギ、ムギ、鳥ではスズメ、カラス、ヒバリ、虫ではホタル、トンボ、獣ではウサギ、キツネ、タヌキなどとのこと。

その一方で、今では少なくなってしまった動植物や風景も多く、例えば、ウサギ、ホタルは地域によっては絶滅危惧。魚として出現最多のメダカは今や環境省レッドリストで、絶滅危惧2類。身近な樹木の代表であったマツが、例のザイセンチュウ松枯れで全国的に激減したのはご案内の通りです。

身近に豊かな生物相を持つ自然があり、それを活用しながら、日本文化は築き上げられてきました。その象徴的なものの一つに、世界最短の詩「俳句」がありますが、それには、「季語」が必要なことは子供でも知っています。季語は自然描写から生まれるのが主流でしょう。今回の「童謡」探索も、「人と生活それをバックアップする自然」を知る手掛かりとして素晴らしいと思うのです。興味ある記事でした。

編集・発行 京都府立林業大学校 〒629-1121 京都府船井郡京丹波町本庄　TEL.0771-84-2401　FAX.0771-84-0797
ホームページ：http://www.pref.kyoto.jp/kyorindai/　E-Mail: kyo-rindai@pref.kyoto.lg.jp